

# 令和6年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	地理・歴史	科目	歴史総合	単位数	2	学年	1年	類型	
教科書	東京書籍 新選歴史総合			副教材	東京書籍 新選歴史総合ワークノート				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点			
				知	思	主				
1 学期	4	第1章 歴史の扉	1節 歴史と私たち	◎	○		<p>学習のねらい</p> <p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする科目である。</p>			
			2節 歴史的特質と資料		◎	○				
	5	第2章 近代化と私たち	1節 近代化への問い	118世紀の東アジア 2結び付くアジア諸地域						
			2節 結び付く世界と日本の開国	318世紀のヨーロッパとアジア	◎			○		
				4産業革命のはじまり	中間考査	◎		◎		
				5世界市場の形成		◎		○		
	6			6東アジア国際関係の変化と日本の開国		◎		○		
				7世界経済の変化と日本の産業革命		○		◎		
			3節 国民国家と明治維新	1市民革命と近代社会 2自由主義とナショナリズム 3アジアの諸国家とその変容	◎	○				
				4明治維新と東アジアの国際関係 5立憲制の広まり		◎		○		
				期末考査	◎	◎				
	7			6帝国主義と植民地 7日清戦争と華夷秩序の解体	◎			○		
			8帝国主義諸国の競合と国際関係 9植民地支配と植民地の近代 1020世紀はじめの世界		○	◎				
4節 近代化と現代的な諸課題				○		◎				
2 学期	8						<p>学習の目標</p> <p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>			
	9	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	1大衆社会の時代		○		◎		
				2第1次世界大戦の展開 3国際協調体制の形成	◎			○		
				4ソヴィエト連邦の成立と社会主義 5アメリカ合衆国の台頭と大量消費社会		○		◎		
				6アジアの経済成長と移動する人々 7反植民地主義の高揚と国際秩序の変容	◎			○		
				中間考査	◎	◎				
	10								<p>評価の観点</p> <p>知識・技能</p> <p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。</p> <p>諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	
				8民主主義の拡大と社会変革の動き 9マスメディアの発達と日常生活		◎				○
			3節 経済危機と第二次世界大戦	1世界恐慌 2アジア・アフリカと大衆社会 3国際協調体制の崩壊 4日中戦争と深刻化する世界の危機		○		◎		
				5第二次世界大戦の勃発 6第二次世界大戦における連合国と戦後構想		○		◎		
	11			7アジア太平洋戦争と日本の敗戦 8連合国の占領政策と冷戦 9再編されるアジアと冷戦	◎	◎				
			第4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題		○	◎				
第4章 グローバル化と私たち			1節 グローバル化への問い	◎	◎					
12		2節 冷戦と世界経済	1冷戦の拡大と第三勢力 2キューバ危機と核兵器の管理 3脱植民地化の進展と地域紛争		○	◎				
			4計画経済と開発 5冷戦下の日本とアジア		◎		○			
			6日本と欧米先進国の経済成長 7地域連携の拡大 8ベトナム戦争と冷戦構造の変容		○	◎				
3 学期	1		3節 世界秩序の変容と日本	1問い直される近代 2石油危機と経済の自由化 3アジアの経済発展と日本		○	◎	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p> <p>よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>		
				4冷戦の終結と世界		◎	○			
				5拡散する地域紛争			◎		○	
				6民主化の視点		◎			○	
	2			7グローバル化と地域統合		○	◎			
				8岐路に立つ世界と日本		○	◎			
				学年末考査	◎	◎				
			4節 現代的な諸課題の形成と展望 歴史探究の方法			○	◎			
3			"			◎	○			
			"			◎	○			
			"			◎	○			
			"			◎	○			

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

- 歴史総合では、現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化として、以下の三つの変化に着目しています。
  - ・産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会のあり方が変化したこと。
  - ・政治、外交、経済、思想や文化などのさまざまな面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会のあり方が変化したこと。
  - ・科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えていっそう流動するようになり、人々の生活や社会のあり方が変化したこと。
  - ・近現代の歴史の大きな変化を、「近代化」、「国際秩序の変化や大衆化」、「グローバル化」と表し、生徒自身が系統立てて学習していきます。
- 予習・復習を必ずするようにしましょう。特に教科書をよく読むようにしましょう。
- 興味を持って、授業に取り組むようにしましょう。
- 日本の文化や社会の発展に興味を持ち、理解するように努力しましょう。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
- 1つの単元の授業の流れは、次のようになります。
  - ①教科書をよく読みます。
  - ②出てくる基本的用語について、その意味を確認します。
  - ③各単元の「主題」や「問い」について理解します。
  - ④ノートを用いて内容を確認します。
- ノートは、板書に加えて口頭で示された重要ポイントも記し、工夫された「自分のノート」を作りましょう。
- 統計資料や表・グラフを読み解く力を身につけるために、作業学習も行います。
- ワークブックを用いて復習を行います。
- 授業開始の1分前には着席をして、教科書・ノート等の授業準備をするように習慣づけてください。
- 常に「なぜ？」という問題意識を持ち、探求的な態度で取り組みましょう。

【家庭学習】

- 歴史総合は社会的事象の歴史的な見方・考え方を鍛える学問です。  
→ 普段から、テレビ・新聞記事・インターネットなどを見て、社会情勢に興味を持つことも大切です。

【定期考査】

- 教科書・ノートを読み直し、授業内容を確認しましょう。
- ワークブックを利用して模擬問題を解く練習をしましょう。
- 基本的な用語はその意味を把握し、正確に書けるように訓練しましょう。
- 特に漢字は正確に書くことを心掛けましょう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の3つの観点から 総合的に評価します。	
評価の規準	1 学期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均